

# 孤立環境における日本語学習者の 言語学習ビリーフに関する研究

—キルギスの大学で日本語を専攻する学生の事例から—

西 條 結 人

## 1. はじめに

「ビリーフ」とは「言語学習の方法・効果などについて人が自覚的または無自覚的に持っている信念や確信」である（日本語教育学会、2005）。岡崎（1999）によれば、言語教育をどう進めるべきかに関わる考え方はその文化の影響を強く受けており、言語学習についてのビリーフも文化的背景に大きく規定されることが示唆されている。

国際交流基金（2020）「2018年度海外日本語教育機関調査」によれば、キルギス共和国（以下、キルギス）<sup>（注1）</sup>には1,606名の日本語学習者がおり、日本語教育実施機関は19機関、日本語教師数47名であると報告されている。近隣の中央アジア4か国（ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）を対象に実施した2018年度調査の学習者数を比較すると、ウズベキスタンが2,288名、カザフスタンが451名、タジキスタン186名、トルクメニスタン3,259名となっており（国際交流基金、2020）、キルギスは中央アジア5か国ではウズベキスタンに次ぐ第3位となっている。キルギスをはじめとする中央アジア地域の日本語教育の特徴としては、「孤立環境」であることが窺える。「孤立環境」における日本語教育とは、「地域内に日本語コミュニティがなく、旅行、留学に行くことも稀で、教室内外で日本語との接触のない海外環境にあること」である（福島・イヴァノヴァ、2006）。

キルギスの日本語学習者をめぐる問題点としては、日本語学習者が日本語学習を仕事に生かす場がなく（入山、2010；ヴォロビヨワ、2013；西條、2017）、日本語学習の実用性の低さが指摘されている。そして学習者の学習動機づけの低減が教育現場での大きな課題となっており、特に生涯学習機関で動機づけの低減は見られ、学習離脱の要因として「日本語の難しさ」が影響することが報告されている（山口、2019）。

キルギスの日本語教師に関する状況を見ると、現地の機関が直接採用しているネイティブ日本語教師は少ないのが現状である（キルギス共和国日本語教師会事務局によると、2019年－2020年度会員ではビシケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学講座1名となっている）。特徴的な点としては、現場ではノンネイティブ教師が多数を占め、日本語教育の中心を担っていること、キルギスの教育機関で働くネイティブ日本語教師の多くが独立行政

法人国際交流基金の日本語専門家や、独立行政法人国際協力機構の JICA 海外協力隊員等を中心として 2 年程度の有期での派遣教師であることが挙げられる。日本から派遣される日本語教師は現地機関での授業を担うとともに、現地の教師教育を担うこともある。さらに、それまでの教授経験や教育能力にかかわらず、赴任国・地域での教師に対する指導・助言に加え、日本語教育プログラムの策定にかかわることがある（文化審議会国語分科会、2019）。そのため、赴任国の日本語教育事情への理解は不可欠な要素である。ビリーフ研究をはじめとするキルギス人日本語学習者に関する基礎研究を充実させることで、日本から派遣される日本語教師の教育文化への適応や、より効果的な日本語教育方法の開発が可能となると考える。

本研究の目的は、キルギスにおける日本語学習者の言語学習に関するビリーフを調査し、その特徴を明らかにすることである。キルギスの日本語学習者のビリーフを明らかにすることで、「孤立環境」における日本語学習者事情を把握し、学習者に寄り添った日本語教育の方法を展開するための一助となることが考えられる。

## 2. 先行研究の分析

外国語学習者を対象としたビリーフ研究の代表的な研究方法としては Horwitz (1987) の BALLI (Beliefs About Language Learning Inventory) が挙げられる。Horwitz (1987) はアメリカの大学で第二言語として英語を学ぶ学習者を対象に、「言語学習の適性」「言語学習の難易度」「言語学習の本質」「学習とコミュニケーションストラテジー」「動機」の 5 領域、35 項目からなる BALLI を用いて、ビリーフ調査を実施し、英語学習者のビリーフ特徴を明らかにしている。日本語教育分野におけるビリーフ研究については、Horwitz (1987) の分析の枠組みに基づく研究が数多く行われている。

海外の日本語学習者に着目したビリーフ研究については、ロシア（木谷、1998）、ハンガリー（若井・岩澤、2004）、フィリピン（片桐、2005；高崎、2006）、スリランカ（和田、2007）、スペイン（阿部、2009）、メキシコ（高崎、2014）、カザフスタン（森、2017）、コスタリカ（松本、2020）等があり、海外日本語教育の現場で広く行われている。特に、阿部（2009）は、Horwitz (1987) の枠組みを再構成し、授業改善に資する学習者の情報を得ることを目的として「教師の役割と学習者の自律性」を新たに設定し、「言語学習の適性」「言語学習の本質」「学習とコミュニケーションストラテジー・教室活動」「学習動機」「教師の役割と学習者の自律性」の 5 つのカテゴリーを分析の枠組みとして用いている。しかしながら、先行研究の中で分析の枠組みとなるカテゴリーは共通する研究事例はいくつか見られるが、それぞれのカテゴリーを構成する項目は研究課題に合わせて独自の項目の追加が行われていることもあ

り、得られた知見が比較しにくいものになっている。そのため、共通の質問紙の枠組みを用いて他国との比較を行う必要があると思われる。

中央アジア地域におけるビリーフ研究としては、森（2017）が挙げられる。森（2017）は首都アスタナ（現ヌルスルタン）とアルマティの日本語教育機関に所属するカザフスタン人日本語学習者と教師 175 名の自律学習に関するビリーフを分析している。森（2017）によると、「学習者自身が学習に責任を持つべきだと考えている一方で、様々な面において教師に依存する姿勢が浮かび上がった」と述べ、カザフスタンでの教師主導型の教育が自律学習ビリーフに影響を与えていることを示唆している。

キルギス人日本語学習者についての調査は、西條他（2016）の優れた日本語教師の行動特性に関する研究がある。西條他（2016）はキルギスの大学で日本語を学習する学生 67 名を対象に優れた日本語教師像に関する質問紙調査を行い、キルギス人日本語学習者の優れた日本語教師像は「指導経験や資格、授業実践能力を備えた教師よりも、日本語の専門性に加え、教師としての人間性を備えた教師」であると報告している。しかし、西條他（2016）は良い日本語教師に対するビリーフであり、キルギス人日本語学習者が言語学習に対してどのような学習観を持っているのかは明らかにされていない。日本語の授業は教師と学習者・学習者相互間の人と人との相互作用が核である（縫部、2001）。教師と学習者が向き合い、学習者同士も相互に作用し合う教室空間を醸成するためには、学習者の教師観とともに、学習者自身の自覚的に、もしくは無自覚的に持っている言語学習に対するビリーフも明らかにしておく必要がある。

### 3. 調査の概要

#### 3. 1. 調査の方法

本研究では、キルギス人日本語学習者の言語学習ビリーフを明らかにするために、高崎（2014）、松本（2020）で使用されたものと同様に「言語学習の適性」「言語学習の本質」「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」「学習動機」「教師の役割と学習者の自律性」の5つのカテゴリーからなる51項目のBALLI調査用紙を用い、キルギスの言語事情に配慮し、日本語で作成したものをキルギス語とロシア語の2言語に翻訳し、調査用紙には2言語を併記した。キルギス語とロシア語への翻訳に際しては、両言語を母語とし、日本語が堪能なキルギス人日本語教師にネイティブチェックを依頼し、精度の確認を行った。高崎（2014）、松本（2020）と同様の調査用紙を用いた理由は、調査で得られた知見を、他の海外日本語教育現場で行われた調査結果と正確に比較できることによる。

ビリーフ調査は51項目を1「強く賛成」、2「賛成」、3「賛成でも反対でもない」、4「反対」、

5「強く反対」の5段階でキルギス人日本語学習者に回答してもらい、データの収集後にそれぞれの項目の平均値と標準偏差を算出した。

### 3. 2. 調査の対象

ピリーフ調査は、2019年12月から2020年3月にかけて、キルギスの首都ビシケク市内にある2つの大学で日本語を専攻言語として選択している学生89名(男性25名、女性64名)を対象に実施した。回答者の詳細については表1に示す通りである。調査データの収集はgoogleフォームを用いてweb上で回答する方法と紙媒体で質問紙に直接記入してもらう方法の2つの方法で行った。なお、今回の調査の回答者となった学生は人文社会系学部に所属し、専門分野は東洋学(歴史・言語)、言語学、国際関係論である。

表1 回答者の詳細情報

回答者数	89名(男性25名、女性64名)
平均年齢	19.82歳
母語	キルギス語42名、ロシア語47名
日本語学習期間	2.09年
回答者の専門分野	東洋学(歴史・言語)4名、言語学57名、国際関係論28名
調査時期	2019年12月～2020年3月

### 4. 結果と考察

本節ではキルギス人日本語学習者を対象に行ったピリーフ調査結果を「言語学習への適性」「言語学習の本質」「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」「学習動機」「教師の役割と学習者の自律性」の5つのカテゴリー別に詳細に見ていく。さらに、キルギス人日本語学習者の調査結果をもとに、メキシコ(高崎, 2014)、コスタリカ(松本, 2020)での研究結果との比較分析を行った。

平均値は1から5の範囲で1に近づくほどキルギス人日本語学習者が強く賛成したことを示し、標準偏差については標準偏差の数値が大きいほど、キルギス人日本語学習者の回答が散らばっていることを示す。

#### 4. 1. 「言語学習への適性」

ビリーフカテゴリー「言語学習への適性」については次の表2の通りである。なお、質問番号2については、「①とても難しい言語」「②難しい言語」「③難しさは普通の言語」「④簡単な言語」「とても簡単な言語」、質問番号45については「①1年以下」「②1～2年」「③3～5年」「④5～10年」「⑤1日に1時間では話せるようにはならない」の5段階評価とし、回答者に評価してもらった。

表2 「言語学習の適性」の平均値と標準偏差

番号	内容	平均値（標準偏差）		
		キルギス	メキシコ	コスタリカ
2	ある言語は他の言語に比べて易しい。日本語は、_____。	1.90 (0.56)	2.37 (0.85)	2.33 (0.75)
3	私は自分が日本語を習得できていると思っている。	3.58 (0.81)	2.29 (0.86)	2.03 (0.86)
5	私の国の人は外国語学習が得意である。	2.64 (0.80)	3.06 (0.89)	2.78 (0.77)
12	数学や科学が得意な人は外国語学習が得意ではない。	3.49 (0.77)	4.31 (0.91)	4.19 (0.92)
18	私は外国語学習に特別な才能を持っている。	2.36 (0.83)	2.59 (0.96)	2.45 (0.94)
41	すべての人が外国語を習得できる。	2.75 (1.13)	1.80 (1.04)	1.64 (0.89)
45	もし1日に1時間ずつ日本語を勉強したら上手になるまでにどのくらいかかるか。	3.35 (1.26)	2.90 (0.80)	2.51 (0.87)

「言語学習への適性」では7項目中、平均値が3を下回っている項目が4項目（番号2、5、18、41）と肯定的な意見が多く見受けられる。特に、番号2「ある言語は他の言語に比べて易しい。日本語は、\_\_。」(1.90)において、多くの日本語学習者が他の言語よりも日本語習得への難しさを感じていることが窺える。

メキシコやコスタリカの日本語学習者と比較すると、メキシコとコスタリカの日本語学習者は外国語習得に対して非常に楽観的であることが窺えるが（番号41）、キルギス人日本語学習者は、他の言語と比べて日本語学習に困難を感じていること（番号2）、日本語習得への自信（番号3）と習得に要する時間（番号45）から、キルギス人日本語学習者はやや悲観的であることが窺える。

#### 4. 2. 「言語学習の本質」

ピリーフカテゴリー「言語学習の本質」については、下記の表3の通りである。

表3 「言語学習の本質」の平均値と標準偏差

番号	内容	平均値（標準偏差）		
		キルギス	メキシコ	コスタリカ
6	日本語の学習は生活の質を豊かにする。	1.83 (0.66)	1.88 (0.84)	1.86 (0.79)
9	外国語を習得するためには、その文化を知ることが重要だ。	1.39 (0.60)	1.82 (0.89)	1.85 (0.91)
14	外国語学習はその外国語が話されている国で行うのが一番いい。	2.27 (0.82)	2.05 (0.99)	2.09 (1.01)
20	外国語学習の中で一番重要なのは、語彙の学習である。	1.76 (0.71)	2.30 (0.89)	2.06 (0.85)
29	外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である。	1.64 (0.79)	2.48 (0.90)	2.39 (0.81)
30	外国語を聞いて理解するよりも話す方が易しい。	2.82 (1.11)	3.13 (1.12)	3.19 (1.05)
34	外国語学習の方法は、他の分野の学習とは異なる。	1.81 (0.81)	2.04 (0.96)	1.83 (0.84)
35	外国語学習の中で一番重要なのは、自分の言語からの翻訳学習である。	1.96 (0.96)	3.38 (1.25)	3.23 (1.14)
42	外国語を話すより、読んだり書いたりする方が易しい。	3.71 (0.76)	2.70 (1.09)	2.55 (1.13)
51	私は趣味を楽しむように日本語を学んでいる。	1.96 (0.93)	1.84 (1.07)	1.68 (0.92)

「言語学習への本質」を構成する11項目のうち、9項目で平均値が3以下となり、多くの学習者が肯定的にとらえていることが窺える。番号6「日本語の学習は生活の質を豊かにする。」(1.83)、9「外国語を習得するためには、その文化を知ることが重要だ。」(1.39)、20「外国語学習の中で一番重要なのは、語彙の学習である。」(1.76)、29「外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である。」(1.64)、34「外国語学習の方法は、他の分野の学習とは異なる。」(1.81)、35「外国語学習の中で一番重要なのは、自分の言語からの翻訳学習である。」(1.96)、51「私は趣味を楽しむように日本語を学んでいる。」(1.96)は肯定的な評価が目立つ

(84)

た。その一方で、番号 42「外国語を話すより、読んだり書いたりする方が易しい。」は平均が 3.71 であり、外国語（日本語）を「読む」「書く」ことに難しさを感じていることが明らかになった。

メキシコとコスタリカの日本語学習者の調査結果と比較すると、メキシコとコスタリカの日本語学習者は母語からの翻訳学習の効果にはやや否定的であることが窺えるが（番号 35）、キルギス人日本語学習者が外国語学習において語彙と文法の学習を重視しており（番号 20、29）、母語からの翻訳学習の効果を強く信じている（番号 35）。また、他国と比較しても、日本語を読んだり書いたりすることに難しさを感じている学習者が多いことが窺える（番号 42）。

#### 4. 3. 「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」

ビリーフカテゴリー「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」の調査結果については次の表 4 の通りである。

表 4 「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」の平均値と標準偏差

番号	内容	平均値（標準偏差）		
		キルギス	メキシコ	コスタリカ
7	きれいな発音で話すことが重要だ。	1.78 (0.77)	1.85 (0.90)	1.83 (0.83)
10	正しく言えるようになるまでは話すべきではない。	3.07 (1.08)	4.09 (0.95)	3.88 (0.96)
13	学習者は教師の説明を聞き、答えを求められたときだけ答えるべきだ。	2.63 (1.02)	3.53 (1.07)	3.44 (1.06)
15	日本人との日本語練習は楽しい。	1.56 (0.71)	1.49 (0.72)	1.56 (0.73)
17	分からない日本語の単語は必ず辞書で調べるべきだ。	1.60 (0.69)	2.45 (1.00)	2.31 (0.99)
21	繰り返し練習することが重要だ。	1.26 (0.47)	1.52 (0.98)	1.29 (0.51)
25	他の人と日本語で話すとき、不安を感じて臆病になることがある。	2.60 (1.19)	2.63 (1.19)	2.31 (1.08)
26	教室で学習者同士で日本語を話しても、学習の役には立たない。	3.16 (1.05)	4.39 (0.89)	4.26 (0.86)

27	外国語学習の誤りは初期の段階で訂正しなければ、後で訂正するのは難しい。	2.22 (1.16)	2.86 (1.23)	2.86 (1.23)
31	CDやMP3などで練習することは重要だ。	1.64 (0.73)	1.57 (0.72)	1.57 (0.72)
32	学習者が積極的に教室活動に参加する授業は良い授業だ。	1.60 (0.72)	1.40 (0.58)	1.40 (0.58)

表4よりキルギス人日本語学習者は、番号7「きれいな発音で話すことが重要だ。」(1.78)、15「日本人との日本語練習は楽しい。」(1.56)、17「分からない日本語の単語は必ず辞書で調べるべきだ。」(1.60)、21「繰り返し練習することが重要だ。」(1.26)、31「CDやMP3などで練習することは重要だ。」(1.64)、32「学習者が積極的に教室活動に参加する授業は良い授業だ。」(1.60)において肯定的な評価が顕著であった。

メキシコとコスタリカの日本語学習者のピリーフと比較すると、メキシコとコスタリカの日本語学習者は正しく話せなくても積極的な姿勢を見せる傾向にある(番号10、13)のに対し、キルギス人日本語学習者は教師の説明を聞き、答えを求められたときにだけ答えること(番号13)に他国よりも賛成している一方で、学習者が積極的に教室活動に参加していることが良い授業であると判断していることが明らかとなった。キルギス人日本語学習者の学習姿勢の特徴として、教師の指示に対して従順であることが窺える。

#### 4. 4. 「学習動機」

ピリーフカテゴリー「学習動機」の結果については次の表5の通りである。

表5 「学習動機」の平均値と標準偏差

番号	内容	平均値 (標準偏差)		
		キルギス	メキシコ	コスタリカ
23	私の国の人は、日本語や日本文化を知ることが重要だと考えている。	3.31 (1.01)	3.47 (0.99)	3.53 (0.90)
37	日本語ができれば、いい就職のチャンスがある。	2.28 (0.98)	1.74 (0.91)	1.92 (0.84)
38	私は日本人の友人を作りたい。	1.63 (0.63)	1.41 (0.70)	1.43 (0.60)
40	外国の文化について知りたい場合、外国語を学習しなくても自分の言語で多くのことを知ることができる。	2.53 (1.06)	3.62 (1.13)	3.45 (1.08)



48	私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる。	3.78 (0.89)	3.38 (1.08)	3.53 (0.95)
49	私は日本語が上手に話せるようになりたい。	1.24 (0.45)	1.09 (0.38)	1.10 (0.38)
50	日本語を学ぶだけではなく、いつか教えたいと思う。	2.56 (1.08)	2.26 (1.20)	2.67 (1.21)

表5より、キルギス人日本語学習者は、メキシコとコスタリカの学習者と同様に、番号38「私は日本人の友人を作りたい。」(1.63)、49「私は日本語が上手に話せるようになりたい。」(1.24)において強く賛成する傾向が見られた。また、番号23「私の国の人は、日本語や日本文化を知ることが重要だと考えている。」、48「私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる。」(3.78)については、キルギス国内においては日本語を話せる機会や環境が少なく、キルギスの人々にとっては日本語が実用的な言語ではないと認識されていることが窺える。その一方で、38「日本語ができれば、いい就職のチャンスがある。」(2.28)は、他国の学習者よりは消極的ではあるが、多くの学習者が賛成と回答しており、学習者自身のキャリア形成に対する日本語学習への期待は高いことが考えられる。

#### 4. 5. 「教師の役割と学習者の自律性」

ブリーフカテゴリー「教師の役割と学習者の自律性」の結果は表6の通りである。

表6 「教師の役割と学習者の自律性」の平均値と標準偏差

番号	内容	平均値 (標準偏差)		
		キルギス	メキシコ	コスタリカ
1	外国語学習に成功するにはいい教師が必要だ。	1.61 (0.65)	1.60 (0.80)	1.53 (0.76)
4	教師による定期的な試験は学習者にとって助けになる。	1.45 (0.54)	1.70 (0.80)	1.63 (0.72)
8	教師が学習到達目標を設定しなければならない。	1.92 (0.84)	1.88 (0.85)	1.59 (0.66)
11	教師にどのように学習を進めるべきかどうか教えてほしい。	1.99 (0.87)	1.83 (0.81)	1.51 (0.59)
16	学習者の評価は教師からされるべきだ。	2.06 (0.84)	1.67 (0.75)	1.70 (0.75)

19	外国語を学習するとき、教師に助言を求め るのが好きだ。	2.17 (0.84)	1.77 (0.83)	1.60 (0.66)
22	自分の外国語学習のどの部分を改善すべき かわかっている。	1.61 (0.65)	1.88 (0.83)	1.81 (0.76)
24	教師の言う通り勉強すれば外国語の上達が 早くなる。	1.99 (0.90)	1.98 (0.76)	1.86 (0.72)
28	自分の間違いを自分でチェックするとき、 一番学習できる。	1.89 (0.82)	2.81 (0.95)	2.77 (0.91)
33	教師は学習者を一生懸命学習させなければ ならない。	2.83 (1.13)	1.63 (0.78)	1.41 (0.66)
36	教師に自分がどのくらい外国語学習が進ん だか教えてほしい。	1.90 (0.8)	1.82 (0.82)	1.61 (0.68)
39	教師に自分の外国語学習上の問題点や困難 点を教えてほしい。	1.78 (0.82)	1.54 (0.93)	1.36 (0.53)
43	はっきりとした目的があれば外国語の上達 が早くなる。	1.51 (0.69)	1.87 (0.86)	1.89 (0.81)
44	日本語を習うことはその文化を研究するた めだけではなく、社会、政治、科学技術を 研究するためにも助けになる。	1.62 (0.65)	2.04 (0.89)	2.07 (0.94)
46	教師は学習者がよく勉強するように動機づ けるべきだ。	1.99 (0.99)	1.55 (0.72)	1.38 (0.60)
47	教師は学習者の学習環境を整えるべきだ。 そうして学習者のサポートを続けるべきだ。	2.00 (0.88)	1.60 (0.70)	1.52 (0.65)

表6より、メキシコとコスタリカの日本語学習者と同様に、キルギス人日本語学習者の「教師の役割と学習者の自律性」ビリーフを示す全ての項目で平均値が3を下回る結果となった。このことから、キルギス人日本語学習者は日本語学習において教師への依存が高い（番号1、4、8、11）と同時に、日本語学習における教師の役割への期待度の高さが確認された（番号24、36、39、46）。また、日本語学習においては文化研究だけではなく、社会や政治、科学技術を研究するための助けになると考えている学習者が多いことが明らかとなった。

しかしながら、番号22「自分の外国語学習のどの部分を改善すべきかわかっている。」(1.61)、28「自分の間違いを自分でチェックするとき、一番学習できる。」(1.89)、43「はっきりとした目的があれば外国語の上達が早くなる。」(1.51)の数値も強く賛成を示している。この点は、森（2017）がカザフスタンの日本語学習者の自律学習ビリーフの特徴として「学

習者自身が学習に責任を持つべきだと考えている一方で、様々な面において教師に依存する姿勢が浮かび上がった」と述べているが、キルギス人日本語学習者においても同様のことが確認された。

教師が学習者の学習の傾向や姿勢を注意深く見ながら、学習者に寄り添い学習目標の設定を行ったり、学習者自身で学習方法を見つめ直す機会の設定や教師からも学習方法の改善点を提示したりすることで、学習者自身の自律学習を促し、教師への依存度を減らすことも可能であると考えられる。

## 5. 本研究のまとめと今後の課題

本研究では、キルギス人日本語学習者の学習ビリーフを明らかにするとともに、メキシコとコスタリカの日本語学習者の言語学習ビリーフ研究（高崎、2014；松本、2020）との比較分析を行った。キルギスの大学で日本語を専攻している学習者が持っている日本語学習へのビリーフの傾向は次のように明らかとなった。

- 1) 学習者自身の日本語学習に対してやや悲観的であり、日本語習得には時間がかかると感じている。（「言語学習の適性」）
- 2) 外国語学習において語彙と文法の学習を重視しており、母語からの翻訳学習の効果を強く信じている。一方で、日本語を読んだり書いたりすることに難しさを感じている。（「言語学習の本質」）
- 3) 教師の説明を聞き、答えを求められたときにだけ答えることに賛成しているが、学習者が積極的に教室活動に参加していることが良い授業であると判断している。（「言語学習とコミュニケーションストラテジー、教室活動」）
- 4) 「孤立環境」下にあるキルギスの人々にとっては日本語が実用的な言語ではないと認識されていることが窺える一方で、学習者自身のキャリア形成に対する日本語学習への期待は高いことが考えられる。（「学習動機」）
- 5) 日本語学習において教師への依存が高いと同時に、日本語学習における教師の役割への期待度の高さが確認された。キルギス人日本語学習者はカザフスタンの日本語学習者と同様に自律学習の必要を感じていながらも、実際には行動できていないことが窺える。（「教師の役割と学習者の自律性」）

キルギス、メキシコ、コスタリカの3か国の学習ビリーフに共通する点として、「日本語習得には時間を要すること」「当該国では日本語はあまり実用的な言語とは思われていない

が、学習者は自身のキャリア形成に対する日本語学習への期待が高い」「教師への依存度が高い」が挙げられる。異なっている点としては、「学習者自身の日本語学習に対する姿勢がやや悲観的である」「学習方法として語彙・文法と同じように母語からの翻訳学習にも重要性を見出しているが、読んだり書いたりすることに難しさを感じている」「授業中には教師に対して従順な態度をとる一方で、学習者が積極的に参加している授業が良い授業であると認識している」が挙げられ、メキシコとコスタリカの学習者にはないキルギス人日本語学習者のビリーフであることが窺える。

今後の課題としては、キルギスの日本語教育機関に所属するノンネイティブ日本語教師やネイティブ日本語教師の日本語学習ビリーフを明らかにし、今回のキルギス人日本語学習者のビリーフと対照させ、岡崎（1999）や日本語教育学会（2005）でも指摘されているように日本語学習者と日本語教師のビリーフの差異を検証する必要がある。学習者のビリーフと実際の教育方法や教室活動のずれは学習到達の妨げになり（Horwitz, 1987）、教師の出身文化に基づくビリーフと学習者の出身文化に基づくビリーフは対立と歩み寄りという形での相互交渉が学習者・教師の間で不断に行われている（岡崎, 1999）。これらのことから、学習者ビリーフと教師による教育活動が密接に関わり合っていることが窺える。また、「孤立環境」下にある日本語教育現場の実情と課題を検証するためにも、キルギス以外の「孤立環境」の日本語教育状況にある国・地域と、日本語学習が実用に結び付きやすい環境「実用的環境」にある国・地域の日本語学習者ビリーフと比較し、検証することも必要であろう。これらのビリーフ研究を積み重ねていくことで海外日本語教育の発展につながり、国や地域の実情に合った日本語教員養成や学習者に寄り添った日本語教育方法の開発に結び付いていくことが期待される。

## 注

- (1) 「キルギス共和国」の呼称をめぐるっては、キルギス語での表記と発音に即して「クルグズ共和国」「クルグズ」「クルグズスタン」が用いられることもあるが、本稿では日本の外務省等の慣例に倣い「キルギス」を使用することとした。

## 〈引用・参考文献〉

- 阿部新（2009）「スペイン・マドリードの大学における日本語学習者の言語学習ビリーフ」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』37、pp.25-62、名古屋外国語大学  
 入山美保（2010）「キルギス共和国における日本語教育の現状と課題」『筑波応用言語学研

- 究』17、pp.85-98、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科応用言語学コース
- 岩井誠二、岩澤和宏 (2004) 「ハンガリー人日本語学習者のビリーフス」『日本語国際センター紀要』14、pp.123-140、国際交流基金日本語国際センター
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2013) 「キルギスの日本語教育事情 (日本研究の新しい動向)」『世界の日本研究』pp.59-67、国際日本文化研究センター
- 岡崎眸 (1999) 「学習者と教師の持つ言語学習についての確信」『日本語教育と日本語学習—学習ストラテジー論に向けて—』pp.147-158、くろしお出版
- 片桐準二 (2005) 「フィリピンにおける日本語学習者の言語学習 Beliefs- フィリピン大学日本語受講生調査から」『国際交流基金日本語教育紀要』1、pp. 85-101、独立行政法人国際交流基金
- 木谷直之 (1998) 「極東ロシアの大学生の言語学習観について—海外日本語教師研修のための基礎データ作成を考える」『日本語国際センター紀要』8、pp.95-110、独立行政法人国際交流基金
- 国際交流基金 (2020) 『海外の日本語教育の現状—2018年度日本語教育機関調査より』、国際交流基金 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/all.pdf> (2020年7月20日アクセス)
- 西條結人、ジュヌシャリエワ・アセーリ、メデルベコワ・チョルボン、ダウレットバエワ・ジャミリヤー (2016) 「キルギスの高等教育機関における「優れた」日本語教師の行動特性：キルギス人日本語学習者への質問紙調査の分析から」『海外日本語教育研究』2、pp.37-51、海外日本語教育学会
- 西條結人 (2017) 「キルギス共和国における日本語教育の現状と課題：「現地化」した日本語教育ネットワークの構築・改善を目指して」『キルギス共和国日本語教師会研究紀要：キルギス日本語教育研究』創刊号、pp.48-59、キルギス共和国日本語教師会
- 高崎三千代 (2006) 「フィリピン・マニラ首都圏の大学における日本語学習者のビリーフ」『国際交流基金日本語教育紀要』2、pp.65-80、独立行政法人国際交流基金
- 高崎三千代 (2014) 「メキシコにおける日本語学習者の特性—ビリーフ調査結果を中心に—」『国際交流基金日本語教育紀要』10、pp.23-38、独立行政法人国際交流基金
- 日本語教育学会 (2005) 「信念 (ビリーフ)」『新版日本語教育事典』、pp.807-808、日本語教育学会
- 縫部義憲 (2001) 『日本語教育学入門 改訂版』、瀝々社
- 福島 青史、マリーナ・イヴァノヴァ (2006) 「孤立環境における日本語教育の社会文脈化の試み—ウズベキタン・日本人材開発センターを例として—」『国際交流基金日本語教育紀要』2、pp.49-64、独立行政法人国際交流基金

- 文化審議会国語分科会 (2019) 『日本語教育人材の研修の在り方について (報告) 改定版』、  
文化審議会国語分科会
- 松本匡史 (2020) 「コスタリカ人日本語学習者の言語学習ビリーフの特徴」『さいたま言語研究』4、pp.1-13、埼玉大学大学院人文社会科学研究所さいたま言語研究会
- 森まどか (2017) 「カザフスタンの日本語学習者と教師の自律学習に関するビリーフ」『キルギス日本語教師会紀要：キルギス日本語教育研究』創刊号、pp.17-36、キルギス共和国日本語教師会
- 山口紀子 (2019) 「孤立環境キルギスにおける生涯学習としての日本語学習動機づけ研究—学習動機と継続意志に注目して—」『人間文化創成科学論叢』21、pp.115-124、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
- 和田衣世 (2007) 「スリランカの大学生の言語学習ビリーフから日本語教育の改善を考える」『国際交流基金日本語教育紀要』3、pp.13-28、独立行政法人国際交流基金
- Horwitz,E.K. (1987) Surveying Students Beliefs About Language Learning, *Learner Strategies in Language Learning*, pp.119-129, Prentice Hall International
- (さいじょう ゆうと・広島大学大学院在学・四国大学全学共通教育センター)